# コラルト・タイムス

令和8年11月1日
第31号
カラフル・オルタレゴ


## 遠くの親戚より、近くの他人

いざというときに頼りになるのは、遠くに住んでいる親戚より、やっぱり近くに住んでいる他人（友人・知人）です。

時代の流れによって、世帯構成が変わり、今では単身世帯がシェアのトップとなっています。特に都市部では、半数以上がひとり暮らしであるということも珍しくありません。

そのようななかで、「集住」という選択肢が注目を集めはじめています。

「シェアハウス」という身近なものから、地方では「エコビレッジ」という大規模なものまで、「集まって住む」という試みが、各地で展開されています。







私もゲイの仲間達と、シェハウスという言葉が一般化する前から共同生活を続けてきましたが、エコロジー＆エコノミーであることはもちろん、そこで得られる「安心感」は代えがたいものがあります。

実際に私自身、家で倒れてしまっていたところを、家人に見つけてもらい、救急搬送してもらって一命をとりとめたこともありました。

孤独死が社会問題となりつつある昨今。今後は、このような「集住」も、暮らし方の一つの選択肢になってくるのではないでしょうか。

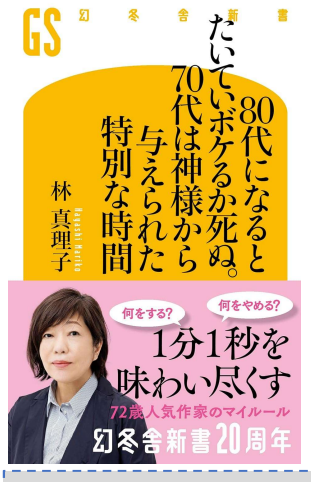
先日、全国各地のエコビレッジを集めたオンライン・イベント『THE VILLAGE 2026 「暮らしのあるコミュニティ大集合！」』が開催されました。

熊本の「浮遊街」での”腐る地域通貨”や、山梨の「キブツ八ヶ岳」での”ベーシック・インコメ（米）”など、各地方で社会実験的な試みが展開されているのも非常に興味深いところです。

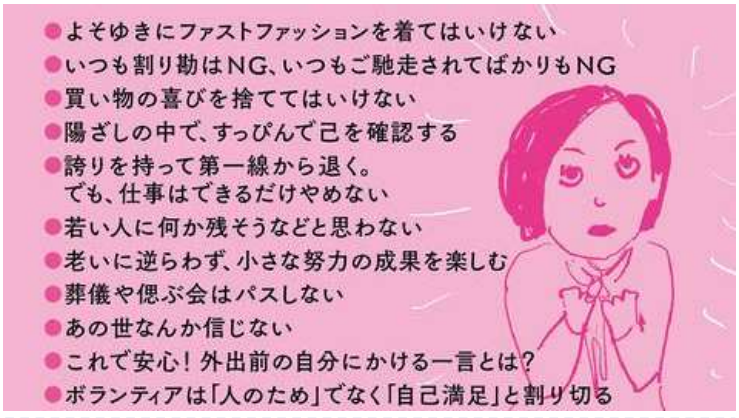
また、都市型の集住としては、北九州の「希望のまちプロジェクト」が、とても理想的なカタチを実顕してくれています。




## 80代になるとたいていボケるか死ぬ。




衝撃的なタイトルですが😅、とても示唆に富んだ名著です！みなさんもぜひ！




東京地方では木枯らし一号もふいて、いよいよ寒い季節が本格到来してきました。

今回の特集は「集住」・・・個人的には、”シングルマザーとゲイのシェアハウス”が、身近な助け合いのひとつのベストなカタチになるのではないかと思っています。🤔

もちろん、集住が苦手な人もいるかと思います。私たちコラルトでは、そういう人達でも気軽に参加できるような「助け合いのカタチ」を模索中です。今後、皆さんにご協力をお願いすることもあるかと思いますので、その際にはどうぞよろしくお願いします。😊　（たいこん）

コラルトWEB　公式LINE

**★参加無料★「コラルトの認サポ」大好評開催中！**
**次回開催は2026年11月28日（土）18:00～19:30です！**
**※お申込は右のコラルト公式LINEのQRコードから、お気軽にどうぞ！**
**公式WEBからもお申し込み可能。（本新聞のバックナンバーも是非ご覧ください！）**